影響等に就て）あり教練に移る

各本科一年並師範科一年は執銃各個分隊教練

各本科二年並師範科二年は執銃帶劍　各個、分隊教練

各本科三年は執銃帶劍　分隊、小隊密集、戰鬪教練

各本科四年並師範科三年は執銃帶劍各個、小隊、密集戰鬪教練

中隊密集教練を行ふ

各年級共先運動場の北端に南面して集合　山口少佐の指揮の許に校長及査閲官の閲兵に始まり約四五十分宛の教練を實施す　分隊、小隊の指揮は同級生中より特に軍隊生活の經驗なき者を指名す　中隊教練は山口少佐自ら指揮せらる

教練を終りたる後各年級共學科の詢問あり　副官は絶えず列中の生徒に近づき學科的質問せらる

正午終つて午後一時より再び査閲官校長以下會議室に入り査閲官より講評を受く

成績良好指揮者の態度及列中生の眞面目な事は昨年とは全く異り國家の軍隊としても辱しからず見受く

講評終つてより打〔脱字〕て軍事教練並に體育體操に關し及びその施設等に就き互に意見の交換をなす

軍事教練に附隨して本學期中に本科四年及圖畫師範科三年全體の實彈射擊演習を行ふ筈

御大葬に關して

二月七日御大葬當日本校に於ては午前十時職員生徒全部大講堂に集合　正木校長の奉悼の辭あり　大正天皇御眞影に最後の御拜をなす　當日は雇員、給仕、小使に至る迄淺〔洩〕なく御拜をなさしむ　尙本校より本校を代表して職員十五名生徒五十名二重橋外に於て御葬儀を奉送す　又校長以下相當資格者は或は葬場殿に先着或は二重橋より供奉して御大葬に參列す

關連事項

①　写真科廃止、移管

本校の臨時写真科は小川一真を代表とする写真業界、正木直彦校長、鎌田弥寿治、結城林蔵らの努力により大正四年に設置され、同十二年に写真科と改称されたが、同十五年五月十九日、文部省令第二十二号を以て廃止された。その間に送り出された卒業生は四十七名であった。

写真科の東京高等工芸学校への移管、教官の異動については既に製版科廃止の項で述べたが（124頁）、移管の経緯に蹉跌があったため、同科が本校に存在した期間の後半部は運営が変則的であった。即ち、大正九、十年度は生徒を募集せず、同十一年度は募集。同十二、十三年度は募集せず、同十四年度は募集という具合で、同科廃止の時点では同十四年度入学生七名が居り、彼らは東京高等工芸学校印刷工芸科写真部に編入された。

教官の異動について言えば、製版科廃止の項の記述と多少重複するが、次のとおりである。

鎌田弥寿治　講師、大正十五年一月～五月写真科主任、写真術担当
東京高等工芸学校教授（印刷工芸科長）

留任して金工科、鋳造科の工芸化学担当講師として昭和三年三月まで在職。

森芳太郎　教授、工芸化学、物理学、写真術担当

大正十四年十二月～昭和三年三月在外研究。工芸化学、化学実験授業担当教授として昭和九年八月まで在職。

畑保之　助教授、写真実習担当

大正十五年五月東京高等工芸学校助教授に転任。

長口宮吉　助教授、写真科理事、工芸化学、化学、化学実験担当

大正十五年五月東京高等工芸学校助教授兼本校講師となり、昭和二年三月まで本校に関係。

久米福衛　講師、写真実習担当
東京高等工芸学校嘱託

大正十五年六月講師を辞任。

伊藤龍吉　講師、写真科修正術担当

大正十五年五月解嘱。

②　西田正秋の起用

大正十五年四月二十三日、西田正秋が助教授（美術解剖授業担当）に任命された。以後昭和四十四年まで本校および東京芸術大学に在職する。

西田は明治三十四年に東京市本郷区西片町に生まれ、翌四十年熊本市に転居。熊本中学校在校中に神戸へ移住して関西学院中学に転校した。中学一年のときから植物学専攻の父の指導のもとで特に動物学の研究を始めた。大正九年上京して同十五年本校を卒業するまでのことは、助教授任命の際に提出した履歴書に次のように記されている。

川端畫學校ハ東京市小石川區下富坂町十九ニアリ。洋畫部ノ教授ハ藤島武二先生、同監督ハ富永勝重先生ナリ。同校通學中約一年間神田ノアテネ・フランセニ通學シ佛蘭西語ヲ修學ス。爾後今日マデ貧弱ナガラ獨習セリ。

美術學校ニテハ教室ハ藤島武二先生ノ教室ヲ選ビ語學ハ英語ヲ選ブ。選擇科目ハ西洋畫科ナリシモ考フル處アリテ大村〔西崖〕先生ノ東洋考古學ヲ選ベリ。

美術學校二年生ノ時特待生ニ選定セラレ級長ヲ命ゼラル。同三年ノ時副級長ヲ命ゼラル。其他種々ノ委員等ヲ命ゼラレシ丁アリ。

同校在學五年間ニハ自己ノ趣味性格上實技ヲ學ブ傍ラ美術ニ關スル各學科ニツキテ聊カ研究ス。就中、藝術用解剖學ヲ最モ好ミソノ研究ヲ専攻セン丁ヲ志シ多少基礎學科ヲモ獨習シ書籍研究材料等ノ蒐集ニモ勉メ今日ニ及ベリ。

（「大正十五年職員関係書類庶務掛」）

ここに記されている「藝術用解剖學」の研究が久米桂一郎に認められて、後継者に抜擢されたのであった。

西田は助教授に任命されるや同じ年の八月から東京帝国大学医学部解剖学教室に通い始め、一年間に亙って屍体解剖実習その他を研究し、基礎知識を修得した。

③　高村光雲の退官および名誉教授推戴

大正十五年三月三十一日、彫刻科主任教授高村光雲が退職した。その長年の功績に鑑み、本校は名誉教授の称号を贈るべく、次のよ